

第9回 帯広市都市計画マスタープラン検討専門部会 会議録 要旨

日時：令和2年1月14日（火）16：30～18：00

場所：帯広畜産大学 図書館

■会議次第

- 1 開会
- 2 専門部会長あいさつ
- 3 内容
 - (1) 趣旨説明
 - (2) 第2次帯広市都市計画マスタープランについて
 - (3) 住みよいまちの実現に向けての検討
- 4 閉会

■出席者

○委員：小林英嗣（部会長）、河西智子、窪田さと子、関口真弘、長沢敏彦
(全5名出席 敬称略)

○事務局：7名

■傍聴者等

- 傍聴者：24名
- 報道：2社

■審議、傍聴者との意見交換の概要

- ・帯広駅前で行っているアイスパークは、空きスペースを有効活用し、市民、あるいは観光客も含めて、楽しさなどをみんなで共有しようという思いから始まっている。
- ・傍聴者の皆さんに事前に配布したアンケートの結果をみると、歩いて楽しい、そして公共交通を使いながら楽しいまちにしたいという意見が多い。
- ・昔は社会人になったら車を持ちたいという、そんな時代だった。しかし、今は若い人は車にはあまり興味が無いように感じる。
- ・帯広・十勝で代表的な都市交通はバスである。バスで行きたい場所に行けるのであれば、車がなくても生活できるようになるのではないかと。
- ・しかし、車を持たないというのは、現状では不便。公共交通をもっと充実させていく必要がある。
- ・公共交通の利用者が減少しても維持できるよう、収支改善のための見直しが必要であると思う。

・公共交通が縮小傾向にあると、利便性が悪くなり、さらに利用者が減っていく恐れがある。

・今後は、今までのバスやタクシーなどの公共交通を個々で考えるのではなく、連携を図っていくべき。

・例えば、バスでは住宅街の細い道路などにも運行させることは難しいが、そこをタクシーの力を借りて、皆が行きたい場所へ簡単に行ける仕組みを作っていくべきである。

・公共交通機関同士が以前までの競争相手ではなく、手をつないでいくという考え方にシフトするべきである。

・国の政策で、最近「MaaS」が重要視されている。簡単に言うと、1つ1つ小間切れになっている交通網を、あたかも1つのサービスとして、色々なところで乗り継ぎができ、ストレスなく利用できるという環境づくりである。

・街中にいくとこんな楽しいことがあるとか、十勝であれば、様々な素晴らしい大自然であるとか、そういった目的地がつながっているのが望ましい。最近では誰もが持っているスマートフォンで目的地を調べると、公共交通によるそこまでの行程が出てくるといったものをつくりあげていきたい。

・帯広は地元企業の頑張りもあり、「MaaS」の先進になる可能性がある。

・アンケートでは帯広の印象として、自然に近い、緑が豊かなどといった意見が多くあった。単に緑が多いだけではなく、帯広の森の存在など、日本の中で緑に関わる人にとっても帯広は一目置かれる存在である。

・帯広の森などの人工林と自然林では植生が異なる。人工林は手入れが必要で、適切に管理をしていく必要があり、帯広市では植林、間伐など森林の管理を地道に行っている。

・帯広の森はヨーロッパの森を再現するという、故吉村市長の壮大な構想から始まった。市街地と農村の交流地域としての森を100年かけてつくろう、という考えである。サステイナブルなエリアとして、次の代に価値を付けて贈っていくというのが、今日来ている皆さんの役割。

・広小路では世代間交流をテーマとしたパブリックスペースの運営が行われている。下は小学4年生から、上は60歳以上の方も来るようなイベントを開催している。

・高校生も訪れるようなイベントを実施していくことが必要であり、そのプロデュースも、大人ではなく、学生が主体となっていくのが理想的である。

・今日来ている高校生の方にもぜひ、取り組んでほしい。

・現状、高校生はあまり広小路に行かないのではないかと。学生や旅行者が無料で飲食できる「ごちめし」制度を導入している店舗もある。

・今日では、全国で街中がスポンジのように空洞化している。そこを駐車場にするのではなく、人が集まる場所にしたい、イベントをやりたいと思っている人がたくさんいるだろう。

・まちづくりは、皆さんが喜んでくれる姿をみたいという想いが重要である。

- ・自分のオフィスに縛られず、色々な場所で出来る仕事が増えてきている。これからモバイル通信が5Gの時代になると、楽しくて社会のためなる仕事がどこにいても出来るようになるだろう。
- ・本州の夏が辛い時、避暑の場所としても帯広は役立つだろう。
- ・社会が自然に変わっていくのではなく、自分たちが十勝・帯広を変えていくんだという気持ちが必要。
- ・大学生の中には、今後も帯広で生活し貢献したいと思っている人もおり、今の学生は大人が思っているより、非常によく考えている。先を見ているという印象を受ける。そのため、これから本当に素晴らしい十勝・帯広を作ってくれることが期待される。
- ・これからのまちづくりを担っていく人が十勝にはたくさん散らばっている。なるべく多くの人とのつながりを持つと、素晴らしいことができるのではないかな。
- ・みずみずしい考えを持っている若い人にはチャンスが多い。それをどう生かしていくかが重要である。
- ・まちづくりはトライ＆エラーが出来るような環境があるということが重要。失敗を恐れると最初の一步が踏み出せない。
- ・大人がハード整備をして環境を整えることが重要。若い人もソフト面の充実を考えていくことが求められるだろう。これは簡単なことではなく、長期的な目線で行っていく必要がある。
- ・みんなでアイディアを出し合いながら、失敗してもそれをカバーしていく環境が大事。トップが指示を出す社会ではなく、皆で考え、答えを導きだしていくべき。

以上